

平成28年度 運営に関する計画

大阪市立生野工業高等学校

1 学校運営の中期目標

1 【視点 学力の向上】

基礎学力を土台として、社会に通用する学力の伸長を図る。

（カリキュラム改革）

2 【視点 道徳心・社会性の育成】

社会生活を営む上で基盤となる知識や生活態度を習得する。

（マネジメント改革）

3 【視点 健康・体力の保持増進】

「知・徳・体」の調和の取れた「豊かな心」を持った生徒を育成する。

（カリキュラム改革）

4 【視点 進路指導】

目的意識を持って将来の職業選択を行うことができる力を育成する。

（マネジメント改革）

2 中期目標の達成に向けた年度目標

1 【視点 学力の向上】

① 基礎学力の向上を図り、生徒が進学・就職において自らの目標を達成できるように支援すると共に、学力不足から中途退学をする生徒の減少に努める。

② 「ものづくり教育」を推進し、魅力ある学校づくりに努める。

（カリキュラム改革）

2 【視点 道徳心・社会性の育成】

学校生活全般を通じて社会規範の啓発を図り、部活動・生徒会活動・クラス活動等を経験しながら、集団生活において「持つべき態度や高い意識」を育成する。（マネジメント改革）

3 【視点 健康・体力の保持増進】

「知・徳・体」の調和の取れた「豊かな心」を持った生徒の育成を目指して、生徒が心・体ともに健康に生活し、また生徒自ら健康づくりを意識できるように指導する。（カリキュラム改革）

4 【視点 進路指導】

全学年一貫した進路指導計画の充実を進め、進路意識の向上に取り組む。（マネジメント改革）

3 本年度の自己評価結果の総括

--

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標を達成できなかった

<p>【視点 学力の向上】</p> <p>年度目標： ① 基礎学力の向上を図り、生徒が進学・就職において自らの目標を達成できるように支援すると共に、学力不足から中途退学をする生徒の減少に努める。</p> <p>② 「ものづくり教育」を推進し、魅力ある学校づくりに努める。(カリキュラム改革)</p>

取組内容（指標）	達成状況
<p>取組内容①【区分 個に応じた学習指導】</p> <p>学習内容を精選し、指導法を工夫することにより、生徒一人一人の基礎学力の充実に取り組む。(カリキュラム改革関連)</p> <p>指標</p> <p>〔国 語〕</p> <p>書き言葉への関心を高め、文章を的確に読み取り、理解する力をつける。そのために、生徒の興味・関心を考慮に入れて選んだ教材に、数多く触れさせ、教員と級友たちとともに、それを積極的かつ主体的に味わう授業をめざす。また、3年の進路指導を射程に入れて、基本的な漢字が書ける、正しい言葉づかい・適切な敬語表現ができる、社会生活に支障がないように語彙力を蓄える、という点を教育活動の眼目とする。</p> <p>〔地歴公民〕</p> <p>生徒が主体的に授業に取り組めるようプリント教材を活用し、教材を精選して生徒が興味・関心を持つことが出来るような授業を展開する。また、授業において確認テスト等の振り返りを取り入れながら、基礎・基本の定着をはかり、すべての科目において、地理的分野・歴史的分野・公民的分野の関連を重視した授業をおこない、生徒が総合的な観点から学習できるように工夫をする。1年間の授業を通じて、「興味・関心を持つことが出来た」と考える生徒の割合を7割以上としたい。</p> <p>〔数 学〕</p> <p>教材の精選によるプリント学習の充実や、問題演習に重点を置いた複数教員によるきめ細かい指導など、様々な工夫を行う。その1つとして新1年生に対し3項目の基礎的教材を作成し活用する。また2年次の選択授業では、少人数での指導や学習意欲を高める内容の精選によりその効果が現れつつある。3年次は、数学Ⅱ、実用総合数学の授業の中で、共通して進路対策問題に取り組ませて、進路意識の向上を図るとともに基礎学力の定着を図る。</p> <p>〔理 科〕</p> <p>日常生活における我々の生活に関係の深い自然現象や法則、科学技術などの解説を中心に授業を行う。基礎学力の定着を図るために、小テストの実施や演示および生徒実験をできる限り実施し、学習意欲の向上にもつなげていく。単に教科の内容を学習するだけでなく、防災の意識向上や生命倫理観の育成などを通して、生命の尊厳を理解させる。また、視覚的教材を積極的に活用し、理解しやすい授業を目指す。</p>	

年度末において、自然科学、科学技術に対する興味、関心がより高まったという生徒を増やすことを目標とし、年度当初と年度末のアンケートを通して、興味、関心の高まった生徒が増えたことを確認する。

〔保健体育〕

体育：年間を通して運動技術向上はもちろんのこと、特に1学期には集団行動の大切さを指導し、号令によって全員が動けるようにする。2・3学期には、運動技術の向上と共に、運動に挑戦しようとする心を育てる。また自らが率先して集団を引っ張ることができるリーダー性を向上させる。

保健：個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。

1年生では1学期に、健康について基礎的な知識を深め、2学期には現代社会の健康問題について学習を深め、3学期には応急手当や心肺蘇生法などについて、知識と技術を身につける。

2年生では、まず生涯を通じての健康を基盤として、1学期に性への知識を深め、2学期には、保険・医療について学習し、知識を深める。そして3学期には社会生活と健康を基盤に、働く人の健康づくりについて知識を深める。

〔美術〕

生徒が興味・関心を持てる教材の選定を行い、基礎・基本の知識・技術をしっかり身につけさせつつ、机間巡視をしながら声かけを行うことで、時間がかかっても自分なりの工夫をし、作品を仕上げさせるよう取り組む。

年度末において美術に対する興味、関心、技術などの向上がみられたという生徒を増やす事を目標とし、年度当初と年度末のアンケートを通して、確認する。

〔英語〕

中学校レベルの英語が理解できることを目標に、基礎・基本に絞った学習内容を重点的に繰り返し指導することにより、基礎学力の定着を目指す。また、週3日間派遣される外国人講師とも緊密に連携をとりながら、生徒の学習意欲の向上に努めるとともに、面接テストや定期検査時にリスニングテストを実施することで、学力の定着度を測る。

昨年度に引き続き、1年生の一部授業で外国人講師とのティーム・ティーチングを取り入れることにより、生徒の苦手意識を緩和し、積極的な授業参加を促すとともに、生徒ひとりひとりに対する細やかな指導も心がける。2・3年生の選択授業でも、少人数制の利点を生かしながら、生徒個々の進路希望を実現できるよう、将来の進路選択を視野に入れた取り組みをおこなっていく。さらに、各学年ともに週1回程度単語テストを実施することで、就職・進学に必要な英語の基礎語彙の習得を図るなど、学年の進行に応じて、基礎力に加えて応用力の育成をも目指す。

〔家庭〕

衣、食、住、家庭経営・経済の分野について、身近に感じられるものを導入として取り入れ、生徒の興味・関心を引き出すように努める。被服実習、調理実習を通して生活的自立に向けた基本的な技能を身に付ける。生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。

料理検定の受検者が増えるように生徒への働きかけを積極的に行う。

<p>〔機 械〕</p> <p>積極的に自作プリントやICTなどを活用することにより、座学の授業において抽象的ではなく具体的な例を挙げ理解しやすくすると共に、実習においても作業内容をイメージし理解しやすいように授業展開を行う。また個に応じたペースで深く理解できる時間を確保する。</p> <p>更に授業に検定試験の内容を含めることで、具体的な目標を持たせる。以上のことで理解度や学習意欲を向上させ成績不振者の減少に努める。</p> <p>〔電 気〕</p> <p>座学と実習の連携を密にし、理論をより深く理解させる工夫をする。また、教科書にない図や説明を自作プリントなど作成し、個々の学習状況に合わせた指導を行う。</p> <p>〔電子機械〕</p> <p>基礎学力の向上を目指し、生徒間格差を解消するために、基礎数学に重点を置いて、幅広く授業展開する。また、個々の学習状況に応じた演習問題を作成したり、自作プリントを活用して、学習意欲を高める工夫を行う。また、短縮授業期間中などに補充授業や補習学習などを積極的に行う。</p>		
<p>取組内容②【区分 資格取得等に応じた学習指導】</p> <p>放課後に講習を実施し、各種資格取得に向けた支援を行う。</p> <p style="text-align: right;">(カリキュラム改革関連)</p>		
<p>指標</p> <p>② 〔英 語〕</p> <p>年3回の実用英語検定受験を積極的に推し進め、教科として補講を定例化するとともに、長期的・組織的な指導を行っていく。英検3級は受験者の50%以上、4級では70%以上の合格率を目指す。</p> <p>〔機 械〕</p> <p>各種資格・検定については年間を通して分担をしながら計画的に補講を行う。特に中・上級の資格については、春・夏休みを利用して30～50時間程度の集中講義・講習を実施する。他の資格においても検定前に15時間程度行う。特に1年生の補講については2、3年生のサポートを得ることで内容を手厚くする。また、授業で資格講習の内容を取り入れたり、多くの検定試験に取り組める環境を整える。以上のような取り組みを通じて、生徒に資格取得に対して目的意識を持たせ、進路決定の支援をおこなう。</p> <p>〔電 気〕</p> <p>専門教科と検定を連動させた指導を中心に行っている。具体的には検定前5～10時間程度の講習を行い、合格率の向上を目指す。</p> <p>上期第二種電気工事士試験では、筆記試験に合格した生徒に対し、休日も利用して実技指導を行う。</p> <p>〔電子機械〕</p> <p>計算技術検定、情報技術検定、ICTプロフィシエンシー検定、危険物取扱者試験、第二種電気工事士試験などの各種検定や国家資格の取得において、年間放課後200時間を超える集中講義や技能講習を行い、さらなる合格率の向上を目指して、計画的に取り組む。</p>		

<p>取組内容③【特別支援教育の充実】</p> <p>学習面でつまづきを抱えている、または周りとうまくコミュニケーションが取れないなど、困り感を持っている生徒に対し、サポートできる体制を作る。また、教職員がそのような生徒の指導や支援をしやすい環境を整える。</p>		
<p>指標</p> <p>教職員が授業や学級などで気になる生徒に関し、どのような困り感を持っているかを確認できる「気づきシート」を4月中に教職員に配布し、活用する。</p> <p>1年生では、学校生活アンケートを1学期中に実施し、生徒自身の困り感を把握する。生徒の困り感と気づきシートの情報、そして学習に関する情報を7月末までにまとめ、生徒一人ひとりの実態を把握できるようにする。8月末の1年拡大ケース会議では、担任や教科担当が生徒の状況や困り感を把握した上で、どのように生徒に指導や支援をすればよいかなどの情報提供を行う。以降は支援が必要な生徒に対し、個別の支援計画等も作成し、随時対応を行う。</p> <p>2,3年生では、1年生時の実態把握をもとに、引き続き学校生活や進級、進路などに困り感がある生徒に対しては必要に応じて支援を行う。</p> <p>教職員に対しては10月頃に校内研修会を行い、特別支援教育に関する理解を促す。</p>		
結果と分析		
次年度への改善点		

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標を達成できなかった

【視点 道徳心・社会性の育成】

年度目標： 学校生活全般を通じて社会規範の啓発を図り、部活動・生徒会活動・クラス活動等を経験しながら、集団生活において「持つべき態度や高い意識」を育成する。(マネジメント改革)

取組内容	達成状況
<p>取組内容①【区分 基本的生活習慣の確立】</p> <p>集団生活において個性を尊重しあう態度を養い、挨拶の励行・遅刻の防止等、基本的生活習慣を身につけさせる。 (マネジメント改革関連)</p> <p>指標</p> <p>正門における挨拶指導を通じて、挨拶のできる生徒の育成をはかる。また、中学校・地域とも連携しながら生徒個々の現状把握に努め、近年、増加傾向にある遅刻数の減少を目標とし、学校・保護者と連携した指導体制を構築する。</p>	
<p>取組内容②【区分 規範意識の育成】</p> <p>服装指導や時間厳守の態度の育成等について担任や教科担当と連携し、日常の教科指導中も含めて繰り返し粘り強く指導を行う。 (マネジメント改革関連)</p> <p>指標</p> <p>問題行動の減少を目標とし、特に授業中の生徒間トラブルや対教師暴言等の事前防止をはかる。この目標を達成するために、生徒指導協議会等の機会を利用し、統一した生徒指導体制の構築をはかり、学校全体で生徒指導にあたることを徹底する。</p>	
<p>取組内容③【区分 人権教育】</p> <p>生徒・教職員が共に人間尊重の自覚を高め、さまざまな差別・偏見の実態を深く学び、差別を許さない意識の向上と、支えあえる仲間づくりを目指す。</p> <p>指標</p> <p>人権教育HRを1年生－2回、2年生－1回、3年生－1回の年4回実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年－いじめ・いやがらせの防止、仲間づくり。 ・2年－支援を必要とする人の困難について。 ・3年－就労にかかわる人権問題について。 <p>2学期に教職員対象の人権研修を行ううえで、教職員からアンケートを取り、現在必要としている内容を把握して研修内容の計画を行う。</p> <p>人権意識の啓発のために人権週間を活用し、人権週間の意義について教える。人権問題にかかわる事象について、生活指導課、進路指導課、特別支援教育推進委員会と連携を行う。</p> <p>今日の社会状況に応じたSNS講習会を、生活指導課と連携し年2回実施する。</p>	

<p>取組内容④【区分 特別活動】</p> <p>学校行事や生徒会活動を通して、集団や社会の一員としての自覚と責任を持ち、自己を生かす能力を養い、民主的ルールに基づいて、自発的・自主的な活動を展開できるようにする。(マネジメント改革関連)</p>		
<p>指標</p> <p>学校行事では、体育祭において、各科の一員としての集団意識を向上させ、生徒それぞれが責任を持ち、自発的・自主的に活動ができるように応援団を組織する。また、文化祭では、各クラスを中心として生徒がものづくり等の制作や準備を行う中で、自己を生かし、積極的に物事に参加する姿勢を養わせる。</p> <p>また、生徒会活動においては、生徒会役員を中心に商店街イベント等に参加し、地域等に貢献する。また、校内では、文化祭等の学校行事の実施や、生徒全体の意見の吸い上げや状況を把握することによって、学校の運営等に協力し、集団や社会の一員としての自覚と責任や自己有用感を持たせるようにする。</p>		
<p>取組内容⑤【区分 部活動の充実】</p> <p>部・委員会・同好会の活動を通して生徒の協調性や積極性、団結力などの伸長をはかり、活気ある学校づくりに努める。(マネジメント改革関連)</p>		
<p>指標</p> <p>1年生に対して、4月に部・委員会・同好会活動の見学、体験を実施し、加入率の向上を目指す。さらに、今年度の実施状況を担任や顧問等と情報を共有しながら、今後の在り方を検討する。また、部活動の活性化をはかるために、リーダー研修を年3回実施し、部活動のリーダーの育成に努め、生徒間の協調性を高められるように指導する。</p>		
<p>結果と分析</p>		
<p>次年度への改善点</p>		

【視点 健康・体力の保持増進】

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標を達成できなかった

<p>【視点 健康・体力の保持増進】</p> <p>年度目標： 「知・徳・体」の調和の取れた「豊かな心」を持った生徒の育成を目指して、生徒が心・体ともに健康に生活し、また、生徒自ら健康づくりを意識できるように指導する。（カリキュラム改革）</p>

取組内容（指標）	達成状況	
<p>取組内容①【健康的な生活習慣の確立】</p> <p>生徒自らが健康に対する意識を高められるようにする。（カリキュラム改革関連）</p> <hr/> <p>指標</p> <p>保健だよりを月1回発行し、生徒の健康に関する意識を高める。また、学校医と連携し、健康診断の事後指導に努める。歯科検診結果を保健だよりに掲載したり、掲示物を作成したりすることで生徒の歯科保健への意識を高める。歯科検診後には個別指導も行う。</p>		
<p>取組内容②【教育環境の整備】</p> <p>校内に危険な場所や汚れている場所がないかを確認し、危険の除去や校内美化を図る。（カリキュラム改革関連）</p> <hr/> <p>指標</p> <p>月1回の校内大清掃を実施し、校内の環境を整備する。また、教職員保健委員と生徒保健委員による校内美化パトロールを月1回実施し、美化パトロールとともにウォータークーラーの清掃と水質チェックを実施し衛生環境を整える。安全点検を学期ごとに行い、校内の安全維持に努める。</p>		
<p>取組内容③【健康に関する現代的課題への対応】</p> <p>朝食欠食による体調不良者を減らし、生徒の朝食摂食に関する意識を高める。（カリキュラム改革関連）</p> <hr/> <p>指標</p> <p>生徒の朝食摂食率を調査し、実態を把握する。生徒保健委員会では朝食に関する各クラスへのアンケートを実施し、学年ごとのロングホームルーム、学校保健委員会、文化祭の展示等を通じて朝食摂食に関する保健指導を行う。</p>		
結果と分析		
次年度への改善点		

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標を達成できなかった

【視点 進路指導】
年度目標： 全学年一貫した進路指導計画の充実を進め、進路意識の向上に取り組む。 <div style="text-align: right;">(マネジメント改革)</div>

取組内容 (指標)	達成状況
取組内容①【区分 進路指導】 3年間を見通した指導計画に基づき進路指導を行う。 (マネジメント改革関連) <hr/> 指標 1. 学年進行に沿って、自己理解・仕事理解・啓発的経験・進路選択に係る意思決定・方策の実行といったステップを踏んだキャリア教育を推進する。 LHR時に年間を通して3回以上の進路セミナーを開催する。 全学年を通して2日間の進路夏季セミナーを実施する。 2. ハローワーク大阪東より講師を派遣依頼し、4月下旬に5日間、3年生全員に対する面接対策を実施する。 3. 考査時につぎの職業検査を実施し、自己理解・仕事理解を深める。 1年生：職業興味検査 2年生：職業適性検査 3年生：職業レディネステスト 4. 進学実績のある大学・専門学校の説明会に参加し、情報交換を行い、進学希望の生徒への情報提供を図る。 5. 中小企業家同友会などの企業の説明会・懇談会等に参加し、情報の収集を図るとともに積極的に求人開拓に取り組む。	
取組内容②【区分 進路指導】 「進路の手引き」を作成し、生徒・保護者に配布する。 (マネジメント改革関連) <hr/> 指標 キャリア形成の6ステップに基づいた本校独自の「生野工 進路の手引き」を作成する。 また、保護者進路説明会に参加した3年生保護者に「手引き」を配布することによって、活用方法の理解、並びに家庭での有効利用を促進する。	
取組内容③【区分 進路指導】 「進路だより」を発行し、全生徒に配布し、生徒・保護者の進路意識を高める。(マネジメント改革関連) <hr/> 指標 1. 月に1回程度のペースで、「進路だより」を発行する。 2. 外部資源による「進路だより」への投稿を依頼し、幅広い情報を提供する。	
結果と分析	
次年度への改善点	

